

第2回 地域学校協働部会

開催日・出席者等

開催日時 令和8年6月23日（火）午後2時35分から午後5時00分

場 所 役場庁議室

出席者	社会教育委員	羽田 吉彦（部会長）
	南小学校長	中村まゆみ（副部会長）
	山ノ内町社会福祉協議会	鈴木 浩史
	オブザーバー	南條信太郎
	南小CS地域コーディネーター	平原 進
	西小CS地域コーディネーター	小河原康貴
欠席者	山ノ内中学校PTA	山口 辰也
	子ども会育成会連絡協議会長	小林 正俊
	里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平
	スポーツ推進委員	中野 哲良

●会議の内容

1 西小学校児童クラブの見学（学校から西小・北部への移動について）

低学年の移動の様子を視察した。

こどもたちの下校・移動の様子について

● 複数経路による混乱のリスク

- 学校から別の場所（分散された児童クラブなど）へ向かうとなると、それぞれのバス経路が複雑化し難しいと感じた。
- 将来的に人数が多くなった場合、複数のバスに乗車させるのは混乱やリスクが大きいため、やはり1つの場所（学校敷地内）で集約して帰せるのが望ましいと感じた。

● 集合スペースの必要性

- スクールバスに乗るこどもたちが、道路を横断する際の付き添いの必要性を実感した。
- 昇降口前で並ばせていたが、学校の規模が大きくなったときにこれだけの人数を安全に並ばせるための十分な集合スペース（スペース設計）が確保できるのかが気になった。

2 協議事項 「テーマ 放課後児童クラブの設置場所について」

● 学校生活との切り替えと連携のしやすさ

- 学校に近い方がいいが、校舎と完全に一体であるよりは「近いけれど独立した別棟」の方が望ましいという意見が支持された。学校での授業が終わり、一旦校舎を出ることで、こども自身が「おうちに帰ってきた」という気持ちの切り替えがしやすい。
- 物理的に近ければ、学校の担任と児童クラブの指導員が、その日のこどもの様子を直接顔を合わせて共有・連携できる。

● 安全な見守りと配置人員の効率化

- 各地区に児童クラブが分散していると、それぞれの場所に 3～4 人ずつなど指導員も分散してしまう。
- 1 つに集約すれば、全体で 6～8 人以上の指導員を配置できるようになり、外遊びをする子、室内で過ごす子など、こどもが分かれて活動しても全員にきっちり目が届く安全な体制が作りやすい。

● スクールバスの運行と送迎の複雑化・コスト回避

- 分散型にした場合、学校から各児童クラブへ向かうバスのルートが複数必要になり、日々の乗せ間違い防止などの運行管理が極めて複雑になる。また、人員配置も含めた維持管理費（ランニングコスト）が膨らむ。

● こどもたちの過ごしやすさと施設の魅力

- 学校敷地内に作れば、冷暖房完備の小アリーナ（体育館）や低学年広場を放課後に活用できる可能性もあり、雨の日や夏でも思い切り体を動かせる「こどもにとって魅力的な場所」にできるのではないかな。

● 決定事項

部会としての最終的な意思決定（方針）は以下の通りとなりました。

● 結論：新しい学校の敷地内に別棟で集約・整備する

原則として、町内の児童クラブは新しい学校の敷地内に集約する。ただし、校舎内ではなく、セキュリティや気持ちの切り替えに配慮した「別棟」として建設します。

● 学校施設の放課後利用

こどもたちの運動不足解消や多様な体験のため、放課後には小アリーナや低学年広場といった学校施設を優先的・効果的に利用できる施設整備と運用ルールを検討していく。

- **北部児童クラブについては「令和 9 年以降に再検討」**

原則は 1 箇所集約だが、北部地区は、住民の存続要望が非常に強い。現時点で閉鎖を決めることはせず、基本設計・実施設計が進んで新しい児童クラブの具体的な全貌（図面や動画など）が提示できるようになる令和 9 年（2027 年）以降に、該当地区の保護者や子どもを交えた懇談の場を改めて設け、最終的な方向性を検討することにする。

以上の方針を 7 月 22 日（水）の学校づくり準備委員会の場で部会からの提案として示し意見をもらうこととします。

- ・ 次回の日程：8 月 21 日（金）14：00～17：00 予定

- ・ 会場：南もしくは東小学校集合→役場 401 会議室

内容：長期休み中の児童クラブの運営

PTA 組織の在り方に関する意見交換